



2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2020年10月23日

上場会社名 株式会社エイアンドティー 上場取引所 東
 コード番号 6722 URL <https://www.aandt.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三坂 成隆
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営管理本部長 (氏名) 新国 泰正 (TEL) 045-440-5810
 四半期報告書提出予定日 2020年11月6日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第3四半期の業績 (2020年1月1日～2020年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	6,915	△16.3	293	△62.0	282	△62.6	204	△64.5
2019年12月期第3四半期	8,266	39.2	770	880.6	754	880.3	574	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2020年12月期第3四半期	32.64		—					
2019年12月期第3四半期	91.83		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期第3四半期	11,244	7,825	69.6	1,250.65
2019年12月期	11,881	7,764	65.3	1,240.99

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 7,825百万円 2019年12月期 7,764百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	24.00	24.00
2020年12月期	—	0.00	—		
2020年12月期(予想)				24.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の業績予想 (2020年1月1日～2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,500	△5.0	815	△15.0	800	△15.2	590	△15.2	94.30

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年12月期3Q	6,257,900株	2019年12月期	6,257,900株
2020年12月期3Q	1,093株	2019年12月期	1,093株
2020年12月期3Q	6,256,807株	2019年12月期3Q	6,256,807株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期財務諸表	7
(1) 四半期貸借対照表	7
(2) 四半期損益計算書	9
第3四半期累計期間	9
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

・2020年12月期第3四半期における活動と決算の概況

a. 新型コロナウイルス感染症への対応を含めた活動の状況

日本における新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」）の拡大は一時期に比べ落ち着きを見せておりますが、まだ収束には至っておらず、新型コロナによる諸問題（以下「新型コロナ問題」）も依然として存在しております。

今期（2020年12月期）は当社にとって現中期経営計画（注1）の最終年度ですが、当第3四半期会計期間（7～9月）における当社の事業活動も、第2四半期会計期間（4～6月）に引き続き新型コロナ問題の影響を受けました。

当第3四半期会計期間（7～9月）では、当社の主要な顧客である病院において臨床検査情報システム及び検体検査自動化システムの案件が予定どおり稼働するなど、営業活動が徐々に再開したものの、依然として一部では訪問規制が続いていることを受けて、引き続き限定的な営業活動を継続せざるを得ませんでした。また、7月には多くの健康診断が再開されたことによる検体検査数の増加に伴い試薬の販売が増加しましたが、その後に新型コロナの感染者数が再び増加傾向となったことにより、病院での外来患者数・検体検査数は減少しました。

なお、当社は第2四半期会計期間（4～6月）に続いて当第3四半期会計期間（7～9月）も、本社及び各支社の従業員についてはテレワークまたは時差出勤を推奨し、工場では厳格な新型コロナ対策を定めて生産活動を継続するなど、製品販売・サービスの維持に努めてまいりました。

（注1）当社は、2028年の創業50周年に向け「持続的な成長に向けた体制づくり」をテーマに掲げ、2018年12月期～2020年12月期の3カ年を対象とする中期経営計画を策定し、①自社製品販売比率を高め、収益性向上を図る、②中国に向けた事業展開を強化し、海外売上高比率を高める、③開発と製造の連携を強化し、安定した高品質な製品の開発・生産体制を構築する、④働き方改革と人材育成を徹底する、を基本方針として、各種重点施策を推進しております。（現中期経営計画の詳細については、平成30年2月8日付「中期経営計画の策定に関するお知らせ」をご覧ください。）

b. 決算の概況

当第3四半期累計期間（1～9月）の売上高・利益について前第3四半期累計期間と比較して説明いたします。売上高は検体検査装置以外の販売が減少し、6,915,198千円（前年同期比16.3%減）となりました（売上高の製品系列別内訳は下表参照）。利益面につきましても、売上高の減少により、売上総利益は3,071,145千円（同14.2%減）となりました。また、営業利益は293,161千円（同62.0%減）、経常利益は282,091千円（同62.6%減）、四半期純利益は204,217千円（同64.5%減）となりました。

表. 製品系列別売上高 当第3四半期累計期間・前第3四半期累計期間比較

区分	前第3四半期累計期間		当第3四半期累計期間		前年同期比	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	増減率 (%)
①臨床検査機器システム	4,656,040	56.3	3,564,991	51.6	△1,091,049	△23.4
(a)検体検査装置	521,100	6.2	575,794	8.3	54,693	10.5
(b)臨床検査情報システム	2,435,657	29.5	1,984,480	28.8	△451,177	△18.5
(c)検体検査自動化システム	1,699,283	20.6	1,004,716	14.5	△694,566	△40.9
②臨床検査試薬	1,632,188	19.7	1,496,123	21.6	△136,065	△8.3
③消耗品	1,551,768	18.8	1,496,073	21.6	△55,695	△3.6
④その他	426,712	5.2	358,011	5.2	△68,700	△16.1
合計	8,266,710	100.0	6,915,198	100.0	△1,351,511	△16.3

○上記表に示された対前年同期比増減要因の説明

①臨床検査機器システム(売上高:3,564,991千円 前年同期比23.4%減)

(a) 検体検査装置(売上高:575,794千円 前年同期比10.5%増)

グルコース分析装置の直接販売が減少した一方、電解質分析装置のOEM先への販売が増加したことにより、増収となりました。

(b) 臨床検査情報システム(売上高:1,984,480千円 前年同期比18.5%減)

次のような増収及び減収の要因がありますが、トータルでは減収となりました。

(増収要因)

- ・第1四半期会計期間(1~3月)における新規・更新需要が旺盛であったこと。
- ・当第3四半期会計期間(7~9月)において他社の新型コロナ抗体検出装置への接続作業が増加したこと。

(減収要因)

- ・第2四半期会計期間(4~6月)並びに当第3四半期会計期間(7~9月)において新型コロナ問題による一部案件の稼働の延期が発生したこと。
- ・前年同期の売上が例年よりも特に好調であったこと。すなわち、前事業年度の第3四半期会計期間(7~9月)において、消費増税前の需要増に伴い大型案件の販売が集中し例年よりも売上が増加していたこと。

(c) 検体検査自動化システム(売上高:1,004,716千円 前年同期比40.9%減)

次のような増収及び減収の要因がありますが、トータルでは減収となりました。

(増収要因)

- ・第1四半期会計期間(1~3月)においては中国OEM先への販売増加や国内及び韓国での新規案件の獲得があったこと。

(減収要因)

- ・第2四半期会計期間(4~6月)並びに当第3四半期会計期間(7~9月)において新型コロナ問題による一部案件の稼働の延期が発生したこと。
- ・前年同期の売上が例年よりも特に好調であったこと。すなわち、前事業年度においては第2四半期会計期間(4~6月)及び第3四半期会計期間(7~9月)に販売が集中し例年よりも売上が増加していたこと。

②臨床検査試薬(売上高:1,496,123千円 前年同期比8.3%減)

第1四半期会計期間(1~3月)における電解質分析装置用の試薬の販売が好調となりましたが、第2四半期会計期間(4~6月)並びに当第3四半期会計期間(7~9月)では、新型コロナ問題による病院の外来患者の受診抑制や健康診断の中止・延期等による検体検査数が減少した結果、第3四半期累計期間(1~9月)では試薬全般で減収となりました。

③消耗品(売上高:1,496,073千円 前年同期比3.6%減)

電解質分析装置用のセンサーの既存OEM先向けの販売が微増となった一方、検体検査自動化システム用の消耗品の販売が減少したことにより減収となりました。

④その他(売上高:358,011千円 前年同期比16.1%減)

「自社製品販売の比率を高め、収益性向上を図る」という基本方針のもと、自社製品の販売に注力した結果、臨床検査情報システム及び検体検査自動化システムの案件に付随する他社製品の販売が減少しました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末と比べ637,644千円減少し、11,244,048千円となりました。流動資産は同731,844千円の減少、固定資産は同94,200千円の増加となりました。流動資産の減少の主な要因は、売上債権の回収により、現金及び預金が773,277千円増加した一方、受取手形及び売掛金が1,657,751千円減少したことによるものです。固定資産の増加の主な要因は、湘南サイト整備のための設備更新等により、建物（純額）が103,086千円増加したことによるものです。

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末と比べ698,041千円減少し、3,419,000千円となりました。流動負債は同395,720千円の減少、固定負債は同302,321千円の減少となりました。流動負債の減少の主な要因は、法人税の支払いにより、未払法人税等が182,606千円減少したことによるものです。固定負債の減少の主な要因は、江刺工場の増設に係る資金の返済により、長期借入金が300,000千円減少したことによるものです。

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末と比べ60,397千円増加し、7,825,048千円となりました。純資産の増加の主な要因は、利益剰余金の増加によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

a. 通期業績予想（2020年7月30日公表）について

次の状況を考慮して通期業績予想は据え置いております。

- ① 通期業績予想を算定した際における第4四半期会計期間（10～12月）の新型コロナ問題による業績への影響の想定が、現時点で大きく変化する見込みがないこと。
- ② 通期業績予想を算定した際における売上見込みに大きな変化がないこと。

なお、新型コロナ問題が及ぼす影響については今後も注視し続け、業績予想の更なる修正が発生した場合には、速やかにお知らせいたします。

b. 通期業績予想に対する当第3四半期累計期間（1～9月）における業績進捗に関する補足説明

当第3四半期累計期間（1～9月）における業績を通期業績予想と比較すると表面上は進捗が遅れているように見えます。（下表1参照）

表1. 通期業績予想と当第3四半期累計期間の業績比較（単位：百万円 1株当たり情報を除く）

	①当第3四半期 累計期間実績	②通期業績予想	進捗率（①/②× 100）
売上高	6,915	10,500	65.8%
営業利益	293	815	35.9%
経常利益	282	800	35.2%
四半期純利益/当期純利益	204	590	34.5%
1株当たり四半期純利益/1株当たり当期純利益	32.64	94.30	34.6%

この理由は主に2つあります（下表2参照）。1つは、第2四半期会計期間（4～6月）から当第3四半期会計期間（7～9月）すなわち本年4～9月に計上を予定していた売上高（ならびに売上高の概ね55%前後の水準で推移する売上原価）の計上予定時期がコロナ問題の影響を受けて第4四半期会計期間（10～12月）以降へと遅れ、結果として第2四半期会計期間（4～6月）及び当第3四半期会計期間（7～9月）の売上が減少したこと、またそれに伴い売上総利益が低水準となったこと。残る1つは、売上高の計上時期が後ろにずれる一方で、固定費的な性格を帯びている販売費及び一般管理費は、削減努力を続けたものの、各四半期会計期間において概ね9億円前後とほぼ一定の水準で推移したことです。

表2. 2020年12月期 第1～第3四半期における各会計期間の業績の推移

	第1四半期会計期間 (1～3月)		第2四半期会計期間 (4～6月)		第3四半期会計期間 (7～9月)	
	金額 (百万円)	対売上高 比率	金額 (百万円)	対売上高 比率	金額 (百万円)	対売上高 比率
売上高	3,194	100.0%	1,762	100.0%	1,958	100.0%
売上原価	1,736	54.4%	967	54.9%	1,139	58.2%
売上総利益	1,457	45.6%	795	45.1%	818	41.8%
販売費及び一般管理費	932	29.2%	896	50.9%	949	48.5%
営業利益	525	16.4%	▲101	▲5.8%	▲130	▲6.7%

一方、後述しますとおり、上記のような売上高、売上原価、販売費及び一般管理費の推移は、通期業績予想値(2020年7月30日公表。以下「通期業績予想」)に反映させております。すなわち、通期業績予想の算出過程において、次の①②のような要素を織り込んでおります。従いまして、当第3四半期累計期間の業績の進捗は利益面において若干の遅れは見られるものの予想の範囲内と考えております。

(通期業績予想の算出過程で考慮した要素)

- ① 営業部門が把握している受注見込
- ② 当社の主要顧客である病院が長期で休診となる年末に製品を納入するという事情により、売上が第4四半期に集中する傾向にあること

なお、上記②につきましては、2020年第2四半期決算説明会資料(2020年7月31日付)でも説明しております。また、当第3四半期会計期間(7～9月)の売上高(1,958百万円)の通期業績予想売上高(10,500百万円)に対する比率は18.7%となり、同資料において当社の傾向として記した予想値(18.7%)に一致しております(下表3参照)。このことから、業績は上記の通りほぼ当社予想通りに進捗していると考えております。

表3. 2020年12月期 各四半期売上高の通期売上高予想値(2020年7月30日公表値)に対する比率

	第1四半期会計期間 (1～3月)	第2四半期会計期間 (4～6月)	第3四半期会計期間 (7～9月)		第4四半期会計期間 (10～12月)
	実績(※1)	実績(※1)	予想(※1)	実績(※2)	予想(※1)
比率	30.4%	16.8%	18.7%	18.7%	34.1%

※1 2020年12月期第2四半期決算説明会資料において、実績及び予想として記載

※2 当第3四半期会計期間(7～9月)の売上高をもとに算出した実績値

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,304,572	2,077,849
受取手形及び売掛金	4,286,267	2,628,516
商品及び製品	645,291	721,968
仕掛品	575,777	584,554
原材料及び貯蔵品	773,266	761,198
その他	82,339	159,927
貸倒引当金	△4,286	△2,628
流動資産合計	7,663,228	6,931,384
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,984,132	2,087,218
土地	1,356,755	1,356,755
その他(純額)	301,537	286,021
有形固定資産合計	3,642,425	3,729,994
無形固定資産	36,755	33,513
投資その他の資産	539,283	549,155
固定資産合計	4,218,463	4,312,663
資産合計	11,881,692	11,244,048
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	805,744	625,074
短期借入金	1,700,000	1,700,000
未払法人税等	189,152	6,546
製品保証引当金	84,576	46,781
賞与引当金	267,169	141,196
その他	596,822	728,146
流動負債合計	3,643,464	3,247,744
固定負債		
長期借入金	450,000	150,000
資産除去債務	6,116	6,178
その他	17,460	15,077
固定負債合計	473,576	171,255
負債合計	4,117,041	3,419,000

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	577,610	577,610
資本剰余金	554,549	554,549
利益剰余金	6,570,758	6,624,813
自己株式	△596	△596
株主資本合計	7,702,322	7,756,376
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	62,328	68,671
評価・換算差額等合計	62,328	68,671
純資産合計	7,764,651	7,825,048
負債純資産合計	11,881,692	11,244,048

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2019年1月1日 至2019年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)
売上高	8,266,710	6,915,198
売上原価	4,686,794	3,844,053
売上総利益	3,579,915	3,071,145
販売費及び一般管理費	2,809,264	2,777,983
営業利益	770,651	293,161
営業外収益		
受取利息	4	8
受取配当金	450	450
保険事務手数料	633	599
助成金収入	54	639
その他	673	366
営業外収益合計	1,815	2,063
営業外費用		
支払利息	10,223	7,743
為替差損	7,552	5,232
その他	36	158
営業外費用合計	17,812	13,134
経常利益	754,654	282,091
特別損失		
固定資産撤去費用	6,570	6,119
その他	339	—
特別損失合計	6,910	6,119
税引前四半期純利益	747,744	275,971
法人税等	173,169	71,753
四半期純利益	574,575	204,217

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社の事業形態は、主として臨床検査に関する製品及びサービスを顧客に提供する単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております